

知事記者会見の概要

日 時：令和8年4月17日(金) 10:00～10:39

場 所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から4件の発表があった。
その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 電源供給・地震体験車の導入について
- (2) クマの目撃情報の発信強化について
- (3) 日本スポーツマスターズ2028 山形大会の開催決定について
- (4) やまがたチェリサポ職員制度+(プラス)について

発表事項

- (1) イラン情勢に関連した県内への影響について

フリー質問

- (1) 代表質問に関して
- (2) 発表事項4に関して
- (3) YCC情報システムへのサイバー攻撃による県業務への影響について

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

春の日差しが大変心地よい季節となってきました。

現在、4月22日まで春季火災予防運動を実施中ですが、最近、剪定枝などの焼却の際の不注意が原因と思われる林野火災が、相次いで発生しております。東根市でもありましたし、上山市でもありました。

春は空気が乾燥して、火災が発生しやすい、そういう季節であります。これからの季節は、農作業が本格化し、山菜採りなどで山に入る機会も増えてくるかと思えます。県民の皆様には、「強風時や乾燥時には、たき火をしない」「やむを得ずたき火をする場合は、水を準備して、その場を絶対に離れない」といったことなど、火の取り扱いに十分注意をしていただきますようお願いいたします。

それから、県内では、週末から気温が上がり、来週の月曜には25℃以上の夏日となる地点も予報されております。まだ身体が高い気温に慣れていない、そういう中で、熱中症のリスクが高まるのが懸念されます。

熱中症を未然に防ぐためには、のどの渇きを感じる前からこまめに水分補給を行う、外出の際は日傘や帽子などで日射しを避けるといったことが重要です。

県民の皆様、特に高齢者の方は、くれぐれも熱中症にならないよう、ご注意をお願いいたします。

また、学校では、部活動などが本格化する時期であります。個々の児童生徒の体調に十分目配りをするとともに、こまめな休憩時間の確保や、水分・塩分補給など、健康管理を徹底して、児童生徒の熱中症事故防止に万全を期していただきたいと思えます。

なお、来週22日からは、熱中症の危険性が極めて高い日には、環境省から「熱中症警戒アラート」が発表されます。アラートの発表は、テレビやラジオなどで周知されるほか、環境省のLINE公式アカウントでも配信されますので、ぜひご活用いただきたいと思えます。

それから、まもなくゴールデンウィークを迎えます。

県内では今月23日に西吾妻スカイバレーが、そして24日には蔵王エコーラインと鳥海ブルーラインが開通予定です。山岳観光も本格的なスタートを迎えます。29日からはゴールデンウィークも始まりますので、本県が誇る豊かな自然を満喫いただく絶好の機会だと考えています。

また、ゴールデンウィークの期間中は、県内各地で多彩なお祭りやイベントが開催されます。炭火で焼きたての大ぶりのカド、カドってニシンのことを言うんですね、山形では。そのカドが味わえる「新庄カド焼まつり」や、一面に広がる菜の花が見頃を迎える三川町の「菜の花まつり」、また、上杉軍団の行列や川中島合戦の再現で知られる「米沢上杉まつり」、さらに、こどもの日の5月5日には、山形市中心部に働く車が集結する「スプリングフェスティバル」など、子どもから大人まで楽しめる催しが数多く予定されております。

このほかにも、県内各地で魅力あふれる企画が予定されておりますので、県民の皆様はもとより、国内外から多くの方にお越し頂いて、山形の春を存分にお楽しみいただきたいと思います。

それから、これ。(補足：知事が「やまがた紅王」の開花の様子を写したフリップを提示する。)

こちらは、園芸農業研究所のさくらんぼ「やまがた紅王」です。今、満開となっております。

「やまがた紅王」、そして「紅秀峰」ともに、すでに満開となっております、生育は平年よりも6日ほど早いということでもあります。

主力の「佐藤錦」も咲き始めており、満開期は過去最も早い令和6年と同じ、4月20日頃と見込まれます。

今がまさに、さくらんぼを結実させるための重要な時期となっているわけでもあります。

生産者の皆様には、さくらんぼを結実させるための重要な時期でありますので、人工受粉を徹底するなど、万全な対応を行っていただき、さくらんぼをたくさん実らせていただきたいというふうに思っております。

☆発表事項

知事

ここからは発表であります、私から発表が4点あります。

まず1点目は、電源供給・地震体験車の導入についてです。

避難所の環境改善、地震に対する防災意識の更なる普及・啓発のため、このたび、災害時に避難所への電源供給が可能となる電源供給・地震体験車を新たに導入いたしました。

今回導入した電源供給・地震体験車では、能登半島地震など過去に発生した地震や南海トラフ地震など今後発生が予想される地震を体験することができます。

また、県内で地震や風水害などの災害が発生した際には、避難所等で電力を供給できます。また、搭載しているLED投光器により、夜間照明として避難所の安全確保にも活用できます。

来月から市町村や消防本部への貸し出しを行ってまいりますので、県民の皆様には、地震の疑似体験を通して、常日頃から防災に対する意識を高め、災害に備えていただきたいと思います。

2点目は、クマの目撃情報の発信強化であります。

昨年は、県内でのクマの出没が3,000件以上と、過去最多となりました。県民の皆様の日常生活に深刻な影響を与える事態となりました。こうした状況を踏まえ、県では、クマとの不用意な遭遇を未然に防ぐため、迅速な目撃情報の提供を目的として、新たにスマートフォンアプリを活用した情報発信を4月1日から開始しました。

具体的には、「けものおと2」、「けものおと」に「ツー」と読みます。「けものおと2」と

いうアプリを活用するもので、市町村が入力したクマ目撃情報が、即時に地図上で確認できます。また、近くでクマの目撃情報があった場合に通知されるアラート機能も備えたものがあります。

本県では、これから山菜取りシーズンが本格化しますし、月末にはゴールデンウィークも控えております。本アプリはこうしたレジャーやお出かけの際に加え、通学や農作業などの日常生活の中での危険の回避にも役立つものでありますので、ぜひ、県民の皆さまに広くご利用いただきたいと考えております。

県としましては、本アプリの利用を広く呼びかけ、市町村と連携しながら、情報の共有と注意喚起を一層強化し、県民の皆様の安全・安心確保に努めてまいります。

3点目は、「スポーツマスターズ」の件です。

一昨日（4月15日）に開催された、日本スポーツ協会の理事会におきまして、「日本スポーツマスターズ2028（にいまるにいはち）」の山形県開催が決定されました。その会場で、遠藤利明日本スポーツ協会会長から開催決定書を頂戴してまいりました。本県で、このマスターズ大会が開催されるのは初めてとなります。（補足：知事が開催決定書を掲げる。）

これが「日本スポーツマスターズ2028」の山形県開催決定の通知書でございます。これを頂いてまいりました。

この大会は、シニア世代の選手や監督など、全国から約8,000名が参加されると聞いております。大会の成功はもちろんですが、この機会を通して多くの皆さんに、本県の豊かな自然・食文化や精神文化に触れていただき、山形の魅力を存分に堪能していただきたいと考えております。

聞くとところによりますと、ご家族の方を帯同される方もいらっしゃるらしくて、競技が終わってから、大会が終わってから観光をされる方々も多いということですので、経済波及効果も大変大きいものがあると聞いているところであります。

今後、市町村や関係機関と十分に連携を取りながら大会開催に向けて準備をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

4点目は、「やまがたチェリサポ」でございます。

令和4年度から実施している「やまがたチェリサポ職員制度」につきまして、今年度から対象作業と従事期間を拡大します。「やまがたチェリサポ職員制度+（プラス）」として実施しますので、お知らせをするものです。

この制度は、さくらんぼの収穫時における人手不足に対応するために、県職員が副業として従事できる取り組みであります。昨年度、制度開始して3年が経過いたしましたので、県職員と農業者にアンケートを実施しました。そうしましたところ、対象作業の拡大を求める声が多く寄せられたところであります。

このため、今年度から対象作業を農作業全般ということに拡大をしまして、ゴールデンウィークの5月2日から11月1日まで従事できることといたしました。

この制度により、副業の取り組みが市町村や民間企業にもさらに広がって、全国の皆様に

さくらんぼをはじめとする山形県のおいしい農産物をお届けするための一助になればというふうを考えているところで、大変期待をしているところであります。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

すみません。幹事の日本経済新聞、松尾と申します。よろしく申し上げます。

イラン情勢に関連して、県内企業への影響を重ねて伺います。

原油由来のナフサですね、これからつくる素材調達が不安定になってきていて、関連する業種に影響が出始めています。

例えば、ユニットバスなんですけども、LIXILとかパナソニック系の企業が納期を不定としています。TOTOが新規受注を受けない措置をとりました。これについてはその後、20日から再開するというふうに発表してますけども、そんな感じで影響が出てます。

県内でも塗装業の皆様はですね、シンナーの在庫切れで受注を止めざるを得ない状況も想定されるとかってことで、看板業とかリフォーム業、こういったところも影響が及んでいるという報道もあります。

そこでお尋ねいたします。こうした状況を県としてどのようにとらえて、どんな対応を考えていらっしゃるのでしょうか。

また、ナフサに限らず新たな影響が出始めている分野があれば、それについての対応もあわせて教えてください。

以上です。

知事

はい。では、お答えいたします。

イラン情勢の影響について、ただ今お話のありました業界に関して、県内の事業者に聞き取りをいたしましたところ、住宅産業では、ユニットバスなどの住宅設備や断熱材・塗料などの資材について価格が上昇している状況と伺っております。

さらに、原材料の調達が不安定なことから、建材メーカーでは、住宅設備や部材の出荷の見通しが立たないこと、それらを施工するハウスメーカーでは、工期の遅れを心配する声が聞かれたところであります。

また、塗装業におきましても、シンナーや塗料について価格の上昇や品薄の状況があり、新規受注が難しいとの声をお聞きしております。

その他の影響としましては、製造業で、メタノールや光ファイバーなどの材料の入手が困難になっているとか、飲食業では、テイクアウト用の食品容器やおしぼりの価格が高騰しており、また、運送業では、パッキングフィルムや梱包用プラスチックバンドが手に入りにくくなっているということでもあります。

こうしたことによる経済活動の停滞、さらには県民生活への影響を心配しているところ
であります。

現在、県では、売上げや利益率が減少した企業に対し低利の融資制度により、資金繰りの
支援を行っているところですが、今後、借入要件を緩和するなど、さらなる支援に向け関係
機関と調整をしているところでもあります。

引き続き、今後の市場の動向や政府の支援措置などを注視しながら、しっかりと状況を把
握し、随時必要な対応策を検討してまいりたいと考えているところです。

記者

県の融資制度の条件緩和ということですが、これはかなり具体的に、いつごろからって
いは検討が始まっているという状況でしょうか。

知事

はい。検討が始まっておりますので、そんなに時間はかからないというふうに思います。

☆フリー質問

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願いします。

今のイラン情勢に付随してなんですけれども、県内の製造販売、食品販売からなんですけ
ど、今後、梱包材の納期だったり、注文数が揃うのかであったりっていうものが非常に不安
だっている声が多く聞こえてきてます。

まもなくというか、2ヶ月後には出荷を迎えるさくらんぼ農家の人たちも、やっぱりさく
らんぼのパッケージ自体がちょっと届くか心配だっているお声もちらほら聞こえてきまし
た。そのことについて知事の所感と、そういうことが実際に起きれば物価高騰、また進んで
しまうかと思えます。それに対する何か支援など、全体的な話になってくると思うんですけ
れども、支援など何か検討されたりということありますでしょうか。

知事

ありがとうございます。さくらんぼに関するご質問ですね。

先ほど写真で紹介しましたが、現在、畑のさくらんぼがちょうど花が咲いていて満開だ
という状況であります。その満開の時期には受粉が非常に大事でありますし、受粉をしっか
り行って結実運動ということを本当に大々的に呼びかけてやっております。あと、この時期
に霜が降りるともう大変で、2回ほどもう霜が降りたっていうのを聞いてるんですけども、
霜対策ということも非常に重要でありまして、現時点の段階、近未来というか、この半月以
内の大変な時期に対して、現場の皆さんと一緒に、県で取り組んでいるところであり
ます。

ですが、今4月で、5月6月にはもう出荷ということになりますので、今、記者さんがおっしゃったような梱包容器ですね、そういったことが非常に目の前のこととして重要で、その時に騒いでも遅いので、やはりそれについてもやっぱり今から動向を把握しながらできる限りの対策を行っていくということになります。

目の前の結実対策に今、とにかく一生懸命だっているのは担当から聞いているんですけども、その先の物価高騰、また、中東情勢からいろんな梱包材の影響といったことまで聞き取りはしているのかどうかはちょっと分かりません。聞き取りしなくてもきちんと把握をしていく必要があるかと思えますので、産労部と農林部と一緒にあって、連携取りながら県としてどういうことができるのか適切な支援といったことを考えていきたいというふうに思います。

記者

改めてなんですけども、こういった県内にも大きな影響を及ぼしているイラン情勢について、改めて知事のご所感をいただきました。

知事

はい。新年の始めから私、1年ごとに大災害がきてるので、今年はその年に当たるので心配だと申し上げてきましたけど、まさかこういう人災みたいなことで県内が影響、こんなに大きく受けるということまではちょっと想像できなかったもので、正直、本当に人災だな、というふうに思っています。これが長く続くと、重く響いてくる、県民生活にも事業活動にも重く響いてくることになりますので、非常に深刻な影響を与える情勢だな、と思っています。

国際情勢でこんなにも県内に影響が及ぶ、グローバルにしてローカル、「グローバル」な時代だなんていうことを本当に切実に実感させられております。

県としてできることと言えば、やはり政府が、しっかりと国際平和というようなことについてできる限りの取り組みをしていただき、また、経済的な影響に対しては政府としてもきちんといろいろな対応をしていただき、地方としてもできる限りのことを取り組んでいかなければいけないというふうに思っているところです。

記者

読売新聞の中戸と申します。

こちらの「チェリサポ制度」のさくらんぼの話に戻ってしまうんですけど、それに関して質問させてください。

まず、これ、対象作業が農作業全般、これまではさくらんぼの収穫だったと思うんですけど、全般になったということで、これはですね、開花期が早まれば当然受粉作業も早まるということで、いわゆる人工授粉の際の人手不足の解消も、それも狙いに行っているのかということと、あと、近年これだけ暖かくなってきましたと、当然収穫時期も早まって、高温障害

などもちょっと懸念されるところではございます。でも、暖かくなれば2023年か2024年
がそうでしたけど、どんどん熟すスピードに収穫の人手が追いつかずに、木に成ったまんま
さくらんぼが腐っちゃうなんてことも多くあったと思いますが、そこを結実大作戦、今実行
しておりますけども、収穫というところですね、こういった制度等を活用して、どうい
ふうに県として取り組んでいきたいかというところの、この2点を伺わせてください。

知事

最初、受粉も入っているかということですね。はい。期間がですね、ゴールデンウィ
ークの5月2日から11月1日までということなので、さくらんぼはすでに花が満開になっ
ておりますので、間に合わないかなと。ただゴールデンウィークの頃、桃とかりんごとかい
ろいろなフルーツの花が咲きますので、そういった果物全般というふうにしますと、間に
合うのかなと。受粉であったり、摘果と言って余計な花を摘み取る、たとえば桃畑に行く
と、生産者の皆さんが桃の花を摘果しているのを目にしたことがありますけれども、そう
いったお手伝いはできるのかなと思います。

そして、フルーツだけでなく農作業全般ということでもありますので、11月1日までとい
うと、稲刈りも入ってきます。ですから、農家の皆さんがフルーツであったり、稲の田植
えだったり、また稲刈り、そういったことも入ってきますので、野菜もありますし花もあ
りますので、本当に農作業、幅広くお手伝いできることがあるかと思っています。農業界
の人手不足に少しでもお役に立てればいいと思いますし、県がそういうことに取組むとい
うことで、市町村でありますとか民間企業でもやはりそういったことが普及して輪が広が
っていくといいなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。次にさくらんぼの生育が早まっていることにつきまして、どん
どん熟すスピードに追いつかず、収穫の人手確保が、というところに関しては。結実対策
に関しては非常に県の方で熱心にやられているようですが、結実した後の対策につい
ては、今どういったところを重視しているのかなというところも改めて、そこについての所
感もお願いできますでしょうか。

知事

結実してから収穫するまでの期間も1か月から2か月ありますので、その間はやはり、細
かな作業になるかと思いますが、お天気とのいろいろなやり取りと言いますかね、勝負
と言いますか、気象変動との戦いと言いますか、そういったこともあります。本当にどう
いうことが起きるか分からないんですね。大雨が降るとか強い風が吹くとか、あるいは5
月6月にも霜じゃなくて雹（ひょう）が降ったりとか、そんなこともありましたので、気
象の予報を見ながらですね、一つ一つ対処していかなければ収穫まで辿り着けないんです

ね。非常にデリケートな果物でありますし、何が起こるか分かりませんので、生産者の皆さんと一体となって、結実した後も油断せずにしっかりと収穫をして出荷できるまで、気を緩めないで、今年こそはということで、官民一体となってしっかりとさくらんぼ県としてですね、力を入れて取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

NHKの内藤と申します。よろしくお願ひします。個人情報漏洩に関する質問なのですが、山形市のYCC情報システムという会社がサイバー攻撃を受けて山形市が最大でおよそ50万件の個人情報が漏洩した可能性があると昨日発表されました。山形県でも同様の事案が確認されているかどうかと、確認されているとしたら県としての対応ですとか、受け止めというのをちょっと教えていただければと思います。

知事

はい。株式会社YCC情報システムのサーバーに保管されていた県保有個人情報につきましては、同社でまだ調査中ということであります。ですが、現時点で判明しているものとしては、県職員の健康管理関係、健康診断などですね、それが約7,700件、退職手当を支給するための債権者登録の情報が約300件、看護師等の業務従事者届の情報が約15,000件など、6つの業務に関する約26,800件のデータが保管されていたということであります。

また、給与等システムなど10のシステムで運用保守をお願いしております。いずれにしましても、個人情報の流出やシステムへの影響などは確認されていない状況でございます。

記者

これは一般の県民の方の情報も流出のおそれがあるということなんですか。

知事

いや、健康診断などは県職員ですし、退職手当も県職員、看護師等の業務従事者、これも県職員ということになります。あと、一般の方も一部あるようです。具体的な細かいこととなりますので、後ほど担当から説明してもらいます。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願ひします。昨日東根市長の土田正剛さんがお亡くなりになられまして、コメントを出されていると思うのですがけれども、改めてコメントをいただければと思います。よろしくお願ひします。

知事

私は、昨日の夕方お聞きをしました。突然の訃報ということで、大変驚いたところであり、入院されているということはお聞きしておりましたけれども、代理も置かないということでお元気だというふうにお聞きしておりましたので、本当に突然だったのではないかというふうに思います。今日、弔問に行かせていただきたいと思いますところがありますけれども、本当に突然で驚いております。

東根市の発展はもちろんのこと、山形県の発展に向けても真摯に取り組んでいただいたことを思いますと、本当に残念でなりません。東根市を今日の発展までこぎつけたということでは、ものすごい素晴らしい功労者であるなというふうに常日頃から思っておりました。東根市はもちろんなのですが、たとえば山形空港の活性化にも非常に熱心に取り組んでくださいました。また、子育て支援ですね、タントクルセンターも先進的な動きだったというふうに思っております。子育て支援でありましたし、「果樹王国」としてブランド力を向上させることにも熱心でありましたし、本当に東根市の発展に向けて様々な事業を精力的に展開されておられました。そういった中でのご逝去であり、私はもちろん多くの方が大変無念に思っていらっしゃるのではないかというふうに思っているところです。また、県内の自由民主党では重鎮も大重鎮であったなと思しますので、本当に頼もしい方だったのではないかというふうに思っております。

「巨星墜つ（きょせいおつ）」というふうに思う方もたくさんいらっしゃると思います。お亡くなりになったのは大変残念でありますけれども、故人のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様には心からお悔やみを申し上げたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。すいません、続いてなのですけれども、2009年の衆院選ですと、土田さん、野党候補の支援をしたり自民党の重鎮でありながら独自の動きというところもあったと思うのですけれども。

知事

2009年？ 私の1回目の選挙ということ？

記者

2009年の衆院選で、たぶん保守分裂などが話題になった選挙で、自民党とはまた違う動きもされたと思うのですけれども、そういった政治手腕というところについてもちょっと伺いできればと。

知事

それがどの選挙を指しているのか、ちょっと（分からないが）。2009年という自分の1回目の選挙でありましたので、その時には応援はしていただけず、私、東根市ではダブルスコアで負かされて、でも私は親からですね、「(土田市長は) すごい強者（つわもの）だ」と、「ああいう方にこそ挨拶に行くといいんだ」というふうに言われて、うちの親も豪傑でしたので、東根市で負けましたけれど、それでもすぐにご挨拶に行きまして、そんなことを思い出しております。

どの選挙でどういうお立場に立たれたかというのは、ちょっとあまりはつきり覚えていないんですけども、やはりご自分の信念を貫かれた方なのではないかなというふうに思っています。私自身に対しても1回目はそうでしたけれども、その後はですね、「自分は自民党であるけれども、吉村美栄子を応援する」というふうに言ってくださって応援してくださったことも何回もありましたので、大変感謝を申し上げているところであります。

だから、筋金入りの自民党の重鎮ではありますけれども、ただやはりしっかりとご自分の信念というものもお持ちの方だったのではないかなというふうに思っています。

以上